

# 数学イノベーション委員会報告書取りまとめに向けた考え方

参考資料2-2  
 科学技術・学術審議会  
 先端研究基盤部会  
 数学イノベーション委員会  
 (第16回) H26.5.27

## 背景

- ・諸科学や産業において数学的アプローチが不可欠との認識が高まっている  
 (例:ビッグデータ社会、情報セキュリティ強化等の社会的要因、計測技術・計算機性能の飛躍的向上等による技術的要因)
- ・国際的にも数学と諸科学・産業との連携に向けた動きが見られる(欧米やアジアにおける連携研究拠点の整備等)

## 報告書に盛り込むべき内容

### 盛り込むべき項目

#### 研究の目標・活動

- 数学と他分野・産業との連携により、重点的に取り組むべき研究課題は何か？

#### 必要な体制・環境

- 連携促進のためには、どのような体制や研究環境が必要か？

#### 人材育成

- 連携促進のために必要な人材をどのように育成するか？

#### 情報発信

- 数学の重要性への理解を高めるのに何が必要か？

### これまでの取組

- 課題発掘(連携ワークショップ等(2011年度～))
- 連携研究プロジェクト等
  - ・戦略的創造研究推進事業(ビッグデータ領域(2013～)、数理モデル領域(2014～))
  - ・科研費特設分野研究(連携探索型数理科学)(2013～)

- 各大学等の連携拠点間ネットワーク構築「数学協働プログラム」(2012～)  
 (実施機関:統数研、協力機関:北大、東北大、東大、明治大、名古屋大、京大、広島大、九大))
- 各大学等の連携拠点整備
- 生命動態拠点(京大、東大、広島大)(2012～)
- 「知のフォーラム」(東北大)(2013～)

- 各大学等の取組(企業へのインターンシップ、企業関係者等の外部講師による講義、等)
- 産業界の取組(採用、インターンシップ受入れ、共同研究等)
- 学会の取組(キャリアパスセミナー(2012～))
- その他(データサイエンティスト育成ネットワークの形成(2013～))

- 一般向け情報発信
  - ・各大学等の取組
  - ・数学協働プログラムでシンポジウム実施(2014)

### 今後の方向性

- 重点的に取り組むべき具体的課題の明確化

- 活動の継続・発展が必要

- 活動の継続・発展が必要

- 活動の継続・発展が必要